

縄文ロードに
向けた活動



通 信

第 5 号



目 次 はじめに 平成14年度 活動内容 学習…2 イベント…4
取材…6 参加・協力…7 情報コーナー…8

はじめに

昨年暮れにおきた埋蔵文化財調査団事務所の火災は、貴重な埋蔵文化財の焼失と、事務局を置いていたクラブにとって大きな痛手となりました。しかし、役員一同、心機一転、新たな気持ちで会員のみなさまとともに活動を行っていきたいと思っております。

今年度は各マスコミからの活動についての取材や、依頼によるイベントの協力事業が多い年でした。今後も縄文文化の素晴らしさを広めていくように、がんばっていきたいと思います。

以下、14年度の活動内容の報告になります。

平成14年度 活動内容

ボランティア	大船遺跡周辺の清掃ボランティア
学 習	原体づくり、骨角器づくり
イベント	縄文土器づくり大会、野焼き
取 材	噴火湾ウィーク (NHK生放送)
参加・協力	縄文遺跡アンド昆布サマースクールIN 南茅部、縄文体験事業、お月見縄文収穫祭

学 習

原体づくり

はじめて原体づくりに挑戦したのは、今から5年前のことです。縄文土器づくりに欠かすことができない「原体」。最近、活動やイベントで作られる土器を見ると、縄目が付けられていないものもあり、縄文土器から離れてきている傾向にありました。そこで、2回目となる今年は、縄文の人たちが1万年近くも縄目にこだわり続けた文様を、もう一度原点にかえり学んでみようと、土器づくりを前に行いました。



つつい力が入っちゃう

久しぶりの原体づくりでは、「これ右捻り？左捻り？あ～指紋がなくなりそう」。などと言いながら薄紙を捻る手に、つい力が入ってしまいます。2時間あまりかけて作った原体を前に、私たちは縄文の人々のこだわりを、ちょっとだけ感じる事ができたように思います

骨角器づくり

9月28日、12名の参加者と鹿の角で釣り針を作りました。

あらかじめ「し」の字に仕上げられた鹿の角のプレートをひたすら砥石とヤスリを使って、釣り針の形にしていきます。

1時間、2時間とシコシコ削る地味な作業ですが、できあがり想像してみんな必死にシコシコ。徐々に形ができてくるとやっぱりうれしいもので、砥石の上を行き来する手のスピードも上がります。

砥石で形ができてきたら、今度はヤスリをかけて細かく調整します。湾曲部分にこだわる人、「かえし」をつける人など、さまざまです。今までの経験からかえしのあるなしでは、釣果にそれほど反映されないように思います。じっさい縄文時代の遺跡からでてくる鹿角製の釣り針にはかえしのないものも多いのです。縄文人はかえしよりも、魚を引き寄せさせる髄が詰まっている鹿の角という素材そのものを重要視していたのでしょう。

今回も自分たちで作った釣り針で、魚を釣ろうと思いましたが、時期、天候が悪く1匹も釣れませんでした。かえしの有無による釣果の比較は次回に持ち越しとなりました。



うまく削れる？



作品を前にハイ、ポーズ

イベント

第5回縄文土器づくり大会

当クラブの一大イベントである縄文土器づくり大会は、晴天に恵まれ、すがすがしい天気の中開催されました。

今回の大会参加者は200名を超えました。俳優で考古学に精通している苅谷俊介さんが参加され、会場のなかは参加者でギュウギュウ詰めです。

最近、「縄文土器」から離れていく作品が多くなってきたため、現代のろくろなどの陶芸用の道具を使わずに、自分の手と海辺で拾った扁平石、指紋をすり減らして擦った原体など縄文時代に土器を作るときに使われていたと思われる道具を使用しました。

今回、指導に当たるスタッフは、「縄文服」を着ることになりました。実は、この縄文服は当クラブ事務局の女性陣が仕事が終わった後、何日もかけて作った力作です。戸井一大間間を渡った縄文船の乗組員が着たものもこの服でした。

あふれんばかりの熱気のなか、縄文服を着た苅谷さんが縄文のお話をいただきました。その後、みんな一斉に粘土をこね始めました。

いままでに何度か参加されている方のなかには自分の気に入った縄文土器の写真のコピーをもってきて、「この形が好き

で、これを作りたいんですよ～」とニンマリ。初めての方も自分なりの「縄文土器」のイメージを持って今大会に臨まれているようで、なかなか早いできあがりです。今回、夏休み中の開催であったため親子の参加者が多く、「親子のコミュニケーションをとるのにもいいですね。」という声も聞こえてきました。次回また参加したいという声が予想以上に多く、大成功でした。次の大会でも趣向を凝らしたものにしていきたいと思います。



ほら、ああいう風に作るんですよ



200名以上の熱気、伝わりますか

野焼き

今年も風がなく、まさに絶好の野焼き日和でした。作品を会場に運ぶとき、野焼きに参加する人全員が誰からともなく、「手伝います。」と縄文土器を大事に抱え、運んでくれます。乾燥させておいた薪を土器焼きの「炉」に運び、燃やします。土を乾燥させるためです。この下焼きをおろそかにすると、せっかくの作品が台無しになってしまいます。「まだ、薪が足りないよ。」「熱いから気をつけて。」お互い声を掛け合い、火に注意しながら薪を燃やしていきます。

「炉」の水分が飛び、土器の色が少し黒ずんできたら徐々に「炉」の中に土器を入れていきます。この時も参加者全員で行います。土器を入れたら、いよいよクライマックスの本焼きです。大量の薪を土器の周りに置き、燃やしていきます。ものすごい熱で土器の表面が赤く燃え、このとき精魂込めて作った縄文土器に命が宿ります。

88名の参加者が声を掛け合い、協力したからこそ200個以上の作品を無事焼くことができたのだと思います。



この下焼きが重要です



これから本焼き、でも煙が目にも・・・

取 材

噴火湾ウィーク (NHK生放送)

前年度に放送された（北海道中ひざくりげ）時は収録でしたが、今回の取材はなんと生放送。さすがに生放送だと、現場には何ともいえない緊張感が漂っています。何時間も前から何度も細かいリハーサルを行い、本番に備えます。

本番前にしてなにやら雰囲気が違う。なんと、たまたま私たちの本番直前に田中外相の辞任の臨時ニュースがあり、もしかしたら時間が食い込むかもしれないというのです。

そして、本番！・・・あれ？やっぱり、モニターに私たちは映っていません。

遅れること10分少々、やっと放送が始まりました。むしろ、このハプニングがあったことで、みんなの緊張も少し和らぎ、集中できたようでした。

この日は縄文鍋を用意し、新メニューの「縄文クッキー」のお披露目の日でもありました。縄文鍋は焼いた石を入れ一気に沸騰させ、縄文クッキーを大きな石の上で焼くと、香ばしい良い匂いがあたりを包み込みました。

初めての生放送で、しかもハプニングのおまけ付きでしたが、すばらしい経験ができたと思います。



リズムよく動かすと、火がつきますよ



リハーサルタイムです

参加・協力

お月見縄文収穫祭 フォーラム縄文夜学

昨年(2011年)の9月21日、抜けるような秋晴れのもと、お月見縄文収穫祭が青森県の三内丸山遺跡で開催されました。この事業は青森・秋田・岩手三県の交流事業の一環として企画され、秋田県は大湯環状列石、岩手県は御所野遺跡と3会場で同時に開催されたイベントです。

私たちが参加した三内丸山遺跡では、フォーラム縄文夜学と題して、小山修三氏をコーディネーターに、木村守男青森県知事と飯田満南茅部町長の対談



他地域との連携の重要性が語られました

が行われました。テーマは「縄文遺跡と地域づくり」で、ともに国の史跡を抱える両首長が、「縄文文化」という地域の特性を活かした地域づくりを根付かせるうえで、縄文をテーマにした様々な活動や交流の重要性と、それに寄せる期待を熱く語られました。

フォーラムに続いて行われたお月見コンサートでは、月明かりのもとで津軽三味線・尺八・パーカッションに合わせて参加者全員が踊るという演出もあり、三内丸山遺跡応援隊の方々と交流を深め、また、交流活動への想いを新たにすひとときでした。

縄文体験事業

夏真っ盛りの8月上旬に、渡島支庁主催、北の縄文クラブ協力による「アングイン編み」と「石器づくり」が南茅部町福祉センターにおいて行われました。

今回は夏休み期間中ということもあって、親子で参加した方も多く、約60名が参加されました。アングイン編みでは、みなさん初めてという人がほとんどで、コモツチが絡み悪戦苦闘していました。そんな中で、とてもほほえましい光景を目にしました。それは、コモツチが絡まないように、親子でコモツチを一つずつ持ち、声をかけながら互いに交差させていくという、見事な連携プレーでした。



このように編んでいくと、「縄文の布」ができます

始めてから2時間ほどたった頃には見事な「縄文の布」が出来上がっていました。

情報コーナー

一 研 修 一

・「子ども人類学会」開催 8月9・10日

伊達市にて行われる「子ども人類学会」に当クラブも参加いたします。8月9・10日の1泊2日の予定です。夏休み中なので親子で参加してはいかがでしょうか。詳細は改めてお知らせします。

・「縄文の郷づくり事業」(渡島支庁主催) 日程未定

今年も渡島支庁主催の「縄文の郷づくり事業」が行われます。内容は地域で活動している団体の育成を目的としたセミナーが行われる予定です。詳細は改めてお知らせします。

一 ホームページ紹介 一

・「北の縄文」

北海道制作のホームページが完成しました。「北の縄文文化回廊」の一環ではじめられたこのホームページでは「ドグー博士」が縄文時代のことを非常に分かりやすく説明しています。

南茅部町の遺跡や当クラブの紹介ページも載っています。URLは
<http://www.pref.hokkaido.jp/skikaku/sk-ssnji/joumon/index.html>
です。

昨年暮れの埋蔵文化財調査団事務所の火災により、同事務所内に保管していた道具・材料が焼失し、14年度に予定していた「カラムシの糸づくり」・「アンギン編み」の活動ができませんでした。この場を借りてお詫びいたします。

新年度は道具を作成し直し、会員のみなさまとともに気持ちを新たに工夫を凝らした活動を行っていきたいと思っています。今後ともよろしく願いいたします。

2003年3月31日

第5号発行

発行 北の縄文CLUB

連絡先 北海道茅部郡南茅部町字大船575-1
南茅部町埋蔵文化財調査団内

TEL 01372-2-5510

FAX 01372-2-5606

メールアドレス

joumon-c@alto.ocn.ne.jp